在学生の活動報告

コミュニティ福祉学部 授業紹介「福祉ワークショップ」

大夛賀政昭（まなびあい運営委員／編集委員／コミュニティ福祉学科 2004 年卒業）

1．コミュニティ福祉学部授業紹介の試み

毎年、学会誌「まなびあい」を発刊するための編集委員会が、年に数回開催されています。今年度の編集委員会では、現在のコミュニティ福祉学部における学びの状況を卒業生などに伝えたらいいのではないかという意見が出ました。そこで、まなびあい編集委員会の企画として、コミュニティ福祉学部の講義に取材を行い「授業紹介」という形で今号のまなびあいに寄稿することとしました。

2．今回取材してきた講義の概要

今回取材してきた福祉ワークショップという講義科目は、コミュニティ福祉学部福祉学科の２年次必修科目となっています。

報告者がコミュニティ福祉学部に在学していた当時（2000 年～ 2004 年）は、コミュニティ福祉学部はコミュニティ福祉学科の１学科のみでした。必修科目としてのゼミナール形式での科目は、１年次は基礎演習、２年次はフィールドスタディ、３年次は専門演習となっていました。現在は、３年次の専門演習にあたるものなくなっているようです。

ただし、３年次には社会福祉実習に係わる演習ゼミ、４年次の卒業研究があるということで、現在のカリキュラムでは選択性の科目による専門的な教育が実施されているところに特徴があるのではないでしょうか。

この福祉ワークショップは、旧科目のフィールドスタディに相当するフィールド型演習に位置付けられています。このフィールド型演習とは、コミュニティ福祉学部のシラバスによると、原則として文献・資料などを通じての準備作業を含み、それらの準備学習からの学びを何らかの形で実地、実践に結びつける演習を意味しているということです。

また、福祉ワークショップにおいては、現場で展開している様々な実践活動に参加し、その経験から自らの視点を形成し、現場で起こる諸課題を理解し、これを知識として組織化することが狙いとして書かれています。履修する学生は、事前に提示される様々なテーマから希望するテーマを選択することになっています。2014 年度のシラバスに書かれていたテーマは次頁のようになっています。

表１　テーマ一覧

１．医療ソーシャルワークの視点を理解する
２．高齢者基礎介護・コミュニケーション体験
３．福祉用具を活用した自立支援について考える
４．障がい、高齢者施設での体験実習プログラム
５．精神障がいを持つ人への理解と交流体験プログラム
６．障がいのある人・子どもへの支援を学ぶ
７．児童福祉施設の現場から学ぶ
８．地域福祉の現場を知る
９．「地域社会」をあるく・みる・きく
10.　要介護高齢者の地域生活支援を考える

今回は、上記のテーマのうち、『「地域社会」をあるく・みる・きく』という岡田哲郎先生が担当される授業にお邪魔し、取材してきました。

３．当日の様子

今回、取材してきた日は、第14回目の最終講義ということもあり、学生たちが行ってきたフィールドワークの調査報告が実施されました。

これまでには、立教大学新座キャンパスがある新座市役所の方や地域福祉推進協議会の方をお招きしての講義やワークショップが開催され、その後、いくつかの班に分かれてのフィールド調査が実施され、その報告会がなされてきたということです。今回、報告されたフィールド調査先は、新座市内の保育所･放課後児童保育室と特別養護老人ホームでした。

まず、前回までの講義の総括として、地域にある様々な社会資源を学生がフィールド調査対象先として選んだことを受け、岡田先生が学術的に整理される「地域社会」の構造を解説し、学生がフィールドとして選定した地域社会資源が地域社会においてどのように位置づけられるかについて整理してくださいました。これは、シラバスにあったフィールド型演習の解説による「フィールドで実際に見聞きした経験を知識として組織化する試み」がなされていたというシーンであったと感じました。

その後､学生によるフィールド調査報告（保育所･放課後児童保育室､特別養護老人ホーム）がなされ、学生同士の質疑応答等が実施されていました。

▲講義冒頭 岡田先生による地域社会構造の解説

▲学生による特別養護老人ホームへの調査報告

4．授業をとった学生へのインタビュー

授業をとったコミュニティ福祉学部福祉学科の２年生３人（岩淵あすかさん、飯島大樹君、庄司晃功君）に、授業後少しお話を伺うことができました。

まず、「福祉ワークショップの岡田先生のテーマを選んだのか」という問いに対しては、「学生同士の評判で岡田先生の講義は面白いからとった。」といった講義を担当する先生で選んだという意見や「専門領域として、高齢者の分野で将来働きたいと思っているが、その前に地域社会にある様々な社会資源について、学んでおきたかった。」といったテーマで選んだという意見がありました。

次に、まなびあいの活動と関連して、「コミ福卒業生とお話しできるとしたらどのようなことを聞きたいか」という質問をしてみました。これに対しては、「なぜ現在の仕事を選んだか」、「今の仕事の悩みはあるか」、「福祉の仕事に就きたいが、生活ができる収入が得られているか」「仕事を変えたとしたらなぜ仕事を変えることになったか」といったような将来の自分のイメージを持つために、先輩の経験を聞いてみたいという意見が多く聞かれました。

最後に「将来はどのようになりたいと考えているのか」ということも聞いてきました。この問いに対して、「福祉を学んでみて初めて、社会に困っている人が多くいることに気付いた。今は、そうした人たちの役に立てる仕事についてみようと思っていますが、２年生ということもあり、勉強を続けているところです。」、「今は具体的な目標はないが、２年生後期から徐々に専門的な科目も増えてくるので、自分が何をやりたいか考えてみたい。」といったようにまだ勉強途中といったお話があった一方、「地域と高齢者の領域で、社会福祉士という資格を生かした仕事がしたい」という明確な目標をもっている学生さんもいらっしゃいました。

▲今回お話しを聞いた岩淵さん、飯島君、庄司君、そして講義を担当した岡田先生

5．取材を通して感じたこと

取材を通して、真面目に授業に取り組み、自らが今後どのような仕事に就き、社会にどのような貢献をしたいかということを真摯に考えている学生の姿をみることができました。取材を行った私自身、そのような学生と触れ合うことで、初心を思い出し、気持ちを新たにすることができました。

このような卒業生と現役生の相互の気付きはまなびあい活動の意義のひとつであり、今後も様々なかたちで活動が展開されていけばいいのではないかと今回の取材を通して改めて感じたところです。

今回は、まなびあい運営委員／編集委員として授業の取材を行いましたが、今後、コミュニティ福祉学部の学びの現在が、卒業生やその他コミュニティ福祉学部関係者に様々な形で周知されるよう、次号以降も学会誌まなびあいでの企画や特集の検討をお願いしたいと考えております。